

## 2 野菜

### ① きゅうり

#### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12									
きゅうり	促成	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇						○	◆	○	○	○	×	×	16,000	
きゅうり	半促成	◆		(◇)	◇	◇	◇	◇						○	×	○	×	×	×	×	(加温作型) 13,000 (無加温作型) 10,000	
きゅうり	抑制									◆		◇	◇	◇	(◇)	○	×	×	×	×	(無加温作型) 5,000 (加温作型) 6,000	
きゅうり	越冬(短期)	◇	◇	×										○	◆	○	×			◇	◇	7,500

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

#### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
促成	本/10a 1,050~ 1,350	基肥	26	43	26	・追肥は、8~10回に分けて施用する。
		追肥	20	0	20	
		合計	46	43	46	
半促成	900~ 1,200	基肥	23	35	23	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	0	15	
		合計	38	35	38	
抑制	900~ 1,200	基肥	10	16	10	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	18	16	18	
越冬 (短期)	900~ 1,200	基肥	12	20	12	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	22	20	22	

#### 【土壌・施肥管理】

##### 1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。

イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

##### 2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。

イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。

ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

エ 親づるの雌花の肥大が始まるころから追肥を開始する。栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg程度を施用する。

## ② なす

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
なす	半促成		◎	×	◇	◇	◇	◇	×					○	◆	7,000
なす	トンネル早熟			◆		◎	×	◇	◇	◇	◇	◇	×		○	8,000
なす	露地	○				◎	×		◇	◇	◇	◇	×			7,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
半促成	本/10a 1,500	基肥	30	30	30	・追肥は、5～6回に分けて施用する。
		追肥	10	0	10	
		合計	40	30	40	
トンネル早熟	1,000	基肥	30	30	30	・追肥は、6回に分けて施用する。
		追肥	12	0	12	
		合計	42	30	42	
露地	650	基肥	30	30	30	・追肥は、4回に分けて施用する。
		追肥	8	0	8	
		合計	38	30	38	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 秋～冬の間に、稲わら、麦わら、あるいは家畜ふんなどの良質堆肥を2～3トン/10a施用する。  
 イ 半促成栽培では、夏期に太陽熱を利用した土壌消毒を行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。  
 イ 台木品種により吸肥力が大きく異なるので、トルバム等は基肥量を控える。  
 ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。  
 エ トンネル早熟・露地栽培では、定植後50日程度で収穫が安定したら追肥を開始するが、栄養診断技術も活用し、1回当たり窒素成分で2～4kg程度を施用する。

#### 3 その他

- ア 定植期が低温期にあるので、早めのマルチなどで地温の上昇を図る。  
 イ 露地栽培でも、常にかん水できるような環境を整え、降雨時には、表層水を速やかに排水できるようにする。

### ③ トマト・ミニトマト

#### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
トマト	促成	◇	◇	◇	◇	◇				○	△	◆	◎		15,000
		x-----x													
ミニトマト	長期越冬	◇	◇	◇◇	◇	◇	◇		◆	◎			x	◇◇◇	10,000
		x-----x													

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 x-x収穫 ◆基肥 ◇追肥

#### 【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
促成	本/10a 1,800 ~2,000	基肥	15	25	15	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	5	15	
		合計	30	30	30	
ミニトマト 長期越冬	2,100~ 2,300	基肥	30	30	30	・追肥は、11月から計10回に分けて施用する。
		追肥	20	10	20	
		合計	50	40	50	

#### 【土壌・施肥管理】

##### 1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。
- イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

##### 2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2~3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。
- エ 栄養診断技術も活用しながら、液肥で1回当たり窒素成分で2kg程度を施用する。

## ④ いちご

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
いちご	促成	◇	◇	◇	◇	○	△	◎	×	×	×	×	×	4,000
		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
促成	7,000 ~7,600	基肥	15	20	15	・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	20	25	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。
- イ 夏期に太陽熱を利用した土壌消毒やたん水処理などを行い、土づくりと土壌病害虫を回避する。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。
- イ リン酸、カリが過剰の場合は、低リン酸、低カリ肥料を活用する。
- ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2週間前には施用し、よく土壌と混和し高うねとする。
- エ 保温開始時期に追肥を開始する。栄養診断技術も活用して、液肥により1回当たり窒素成分量で1kg程度を施用する。
- オ 連続畦栽培では、基肥量を約3~4割程度削減し、合計で15kg/10aとする。

## ⑤ にがうり

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
にがうり	露地				○	◆	◎	×	—	◇	◇	×				3,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地	本/10a 660	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	25	25	25	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 稲わら、もみ殻堆肥などの良質堆肥を3トン/10a施用する。

#### 2 施肥

ア 基肥は、土壌診断及び堆肥の成分含有量を考慮して、施用量を決める。

イ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植の2～3週間前には施用し、よく土壌と混和しておく。

ウ 基肥量が多いと草勢が旺盛になり、雌花着性に悪影響を及ぼす。

エ 追肥は、肥切れとならないよう、収穫始めごろから数回に分けて行い、草勢の維持を図る。

## ⑥ えだまめ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
えだまめ	ハウス早熟		△ ○	◎	△	△	△	△	×	×							1,500
えだまめ	トンネル早熟			◎	◎	△	△	×	×								1,300
えだまめ	露地				◎	△	△	×	×								1,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ∩トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
ハウス早熟	24,000	基肥	8	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	12	12	
トンネル早熟	20,000	基肥	8	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	12	12	
露地	22,000	基肥	10	12	12	
		追肥	0	0	0	
		合計	10	12	12	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥1トン/10aを施用する。  
 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

#### 2 施肥

- ア 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。  
 イ 全量基肥とし、草勢を見ながら必要な場合は窒素成分で1~2kg程度施用する。  
 ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

## ⑦ さやいんげん

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
さやいんげん	露地抑制						◆	○		◇	◇	◇				1,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地抑制	本/10a 2,800	基肥	16	22	16	・追肥は、3回前後に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	20	22	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 比較的浅根で、乾湿に弱いため、有機質の投入等による十分な土づくりを行う。

ウ 連作による収量・品質の低下を防ぐため、マメ科作物の連作を避け、3～4年の輪作を行う。

#### 2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。

イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ 追肥は着きょう期以降に2～3回に分けて、2～3週間おきに施用する。

## ⑧ スイートコーン

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
スイートコーン	トンネル早熟			◆ ○ ○	○	◇	×	×							1,200
スイートコーン	普通			◆ ○	○	◇	×	×							1,300

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◡トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
トンネル早熟	本/10a 4,800	基肥	22	20	25	
		追肥	0	0	0	
		合計	22	20	25	
普通	4,000	基肥	20	18	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	18	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 地力のある保水性の高いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 吸肥力が強いいため十分な肥効を保つ。



## ⑨ ねぎ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ねぎ	秋冬どり		○	×	○	◆※	◎	◎		◇	◇	◇	◇		4,000
ねぎ	春どり			×	○	◇	○	◎	◎	◇	◇	◇	◇		4,000
ねぎ	夏どり	○	◆	◎	◎	◇	◇	◇	×					○	3,200

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋冬どり	本/10a 33,000 ~40,000	基肥	5	8	5	※6月中旬以降の定植は、基肥を施用しない。 ・水田等地力窒素が少ない場合は基肥を増肥。 ・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	15	15	15	
		合計	20	23	20	
春どり	33,000 ~40,000	基肥	0	0	0	・基肥は施用しない。 ・追肥は、5~6回に分けて施用する。
		追肥	18	18	18	
		合計	18	18	18	
夏どり	33,000 ~40,000	基肥	13	15	13	・追肥は、生育に合わせ3~4回に分けて施用する。
		追肥	9	9	9	
		合計	22	24	22	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。
- ウ 多雨時や高温乾燥時の対策としてリビングマルチの導入が有効である。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料をまたは緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 高温多湿期の多肥は根への影響が大きく軟腐病、白絹病の多発につながるので注意する。

## ⑩ わけねぎ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
わけねぎ	冬どり							◆	◎	—	◇	—	◇	—	×	—	×	4,000

凡例:◎播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
冬どり	株 /10a 9,000	基肥	10	18	8	
		追肥	12	8	10	
		合計	22	26	18	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3t/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

## ⑪ たまねぎ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
たまねぎ	秋まき マルチ					x	x				○	○	◆	◎		6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

		単位: kg/10a				施肥の留意点
作型	栽植本数	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		
秋まき マルチ	本/10a 24,000	基肥	20	28	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	28	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 酸性土壌では、リン酸の肥効が劣るので注意する。
- ウ 球の肥大には適度な土壌水分が必要なため、適湿を保てる土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

## ⑫ ほうれんそう

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
ほうれんそう	春まき		◆	○	○	○	○								1,250
ほうれんそう	夏まき 雨よけ					◆	○	△	△						1,000
ほうれんそう	秋まき	○								◆	○	○	○	○	1,800
ほうれんそう	冬まき トンネル	○	○	○	○	○							◆	○	1,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◯トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数 本/10a		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
春まき	5~6	基肥	11	12	11	
		追肥	0	0	0	
		合計	11	12	11	
夏まき 雨よけ	5~6	基肥	8	8	8	
		追肥	0	0	0	
		合計	8	8	8	
秋まき	8	基肥	20	22	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	22	18	
冬まき トンネル	7~8	基肥	18	21	18	
		追肥	0	0	0	
		合計	18	21	18	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 多肥では過繁茂となりやすいため、前作の残存肥料を考慮する。

#### 2 施肥

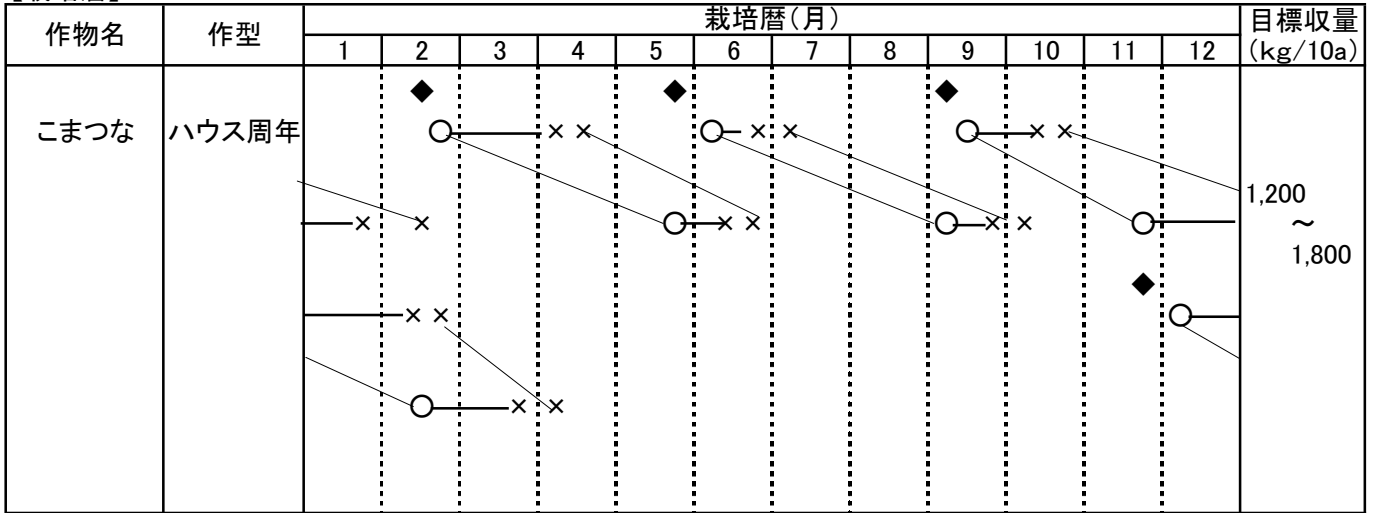
ア 全量基肥とし、草勢を見ながら必要な場合は窒素成分で1~2kg程度施用する。

イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

ウ マルチ栽培では、各成分とも1~2割程度減肥する。

## ⑬ こまつな

### 【栽培暦】



凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◯トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
ハウス周年	畝/10a 1~2	基肥	12	12	12	・1作の施肥量。 ・夏まきでは3~5割の減肥。
		追肥	0	0	0	
		合計	12	12	12	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3t/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 酸性には比較的強いが、pH5以下にはならないように注意する。

#### 2 施肥

- ア 全量基肥とし施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 連作や生育期間の短い夏播きでは3~5割程度減肥する。
- エ リン酸の吸収効率の良い特性があるので、連作ではリン酸を減肥する。

## ⑭ さんとうさい

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
さんとうさい	秋まき									◆	◇◇				
										○◎	—	—	—	××	
															8,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋まき	本/10a	基肥	25	25	25	・追肥は2回に分けて施用する。
	3,000	追肥	10	0	5	
		合計	35	25	30	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

#### 2 施肥

- ア 肥料の吸収は、窒素やカリは多く、リン酸は比較的少ない。石灰の吸収は多く苦土は少ない。
- イ 生育初期の30日間は吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。
- ウ 結球開始期以降の吸収に備えて、追肥を行う。

## ⑮ はくさい

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
はくさい	秋まき	×								○	◆	◇	◇			
		—								◎	—	—	—	×		
																6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
秋まき	本/10a 3,500	基肥	20	20	20	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	8	0	5	
		合計	28	20	25	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。
- イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

#### 2 施肥

- ア 窒素過剰は生育が軟弱となり病害の発生を助長する。しかし不足は収量減に繋がるので注意する。
- イ 生育初期の30日間は吸収量が少ないが、結球開始期から急速に増加する。
- ウ 平均気温13℃以下で花芽分化が始まり葉数が増加しないため、10月下旬までには追肥を終了させる。

## ⑯ キャベツ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
キャベツ	秋冬どり								○	◎	◇	◇	×	×	5,500
キャベツ	冬どり			×					○	◎	◇	◇	×	×	6,000
キャベツ	初夏どり		◇	◇			×	×			○	◎	◇	◇	4,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋冬どり	4,000	基肥	15	18	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	20	18	20	
冬どり	4,000	基肥	20	20	15	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	0	5	
		合計	25	20	20	
初夏どり	4,200	基肥	15	20	15	・追肥は、2～3回に分けて施用する。
		追肥	11	0	8	
		合計	26	20	23	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根の酸素要求量が高いので有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。
- ウ 養分吸収は、窒素は外葉と結球葉に、石灰は外葉に多い。窒素、カリ、石灰は生育後半の吸収量が増加する。



## ⑰ しゅんぎく

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
しゅんぎく	秋まきハウス	◇	◇	◇										◆	△	○	◎	×	3,600

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◯トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋まき ハウス	本/10a 38,000	基肥	14	20	14	・元肥は、有機質または緩効性肥料主体とする。 ・追肥は、2～3回に分けて施用する。 ・追肥は、灌水を兼ねて液肥で施用する。
		追肥	6	0	6	
		合計	20	20	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て施用する。

# ⑱ レタス

## 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
レタス	秋まきハウス										○	◎	△		3,000
		×	×												
レタス	夏まき 秋どり									○	◎	◇	×	×	3,500
											◆				

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ▽トンネル

## 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
秋まき ハウス	本/10a 6,500	基肥	25	25	23	
		追肥	0	0	0	
		合計	25	25	23	
夏まき 秋どり	6,500	基肥	20	18	20	
		追肥	0	0	0	
		合計	20	18	20	

## 【土壌・施肥管理】

### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

### 2 施肥

- ア 苗は活着するまで多肥には弱いので、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 秋まきハウス栽培では、きゅうりの後等前作の残肥がかなりある場合は減肥する。

## ⑱ カリフラワー

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
カリフラワー	夏まき 秋冬どり	×						○	○	◆	◇	◇			×	2,400

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

作型	栽植本数 本/10a	単位: kg/10a			施肥の留意点
		基肥	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	
夏まき	3,500	基肥	15	24	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
秋冬どり		追肥	8	0	
		合計	23	24	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

## ②0 ブロッコリー

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ブロッコリー	早春まき トンネル	○	◆ ○	○	×	×								1,200
ブロッコリー	夏まき 秋冬どり				×			○	◆ ○	◇	◇	×		1,200

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◡トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
早春まき トンネル	本/10a	基肥	16	20	16	・基肥は、緩効性肥料を施用する。
	3,500	追肥	0	0	0	
	~4,000	合計	16	20	16	
夏まき 秋冬どり	3,000	基肥	10	14	10	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4	0	4	
		合計	14	14	14	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

## ②1 たいさい

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
たいさい	秋まき露地								◆	○	◇	×	×	4,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
秋まき露地	本/10a 0.2~0.3	基肥	20	20	20	・追肥は、播種後30日頃、生育状況に応じ実施。
		追肥	3	1	3	
		合計	23	21	23	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 施肥は基肥を中心に、追肥は株の状況を見て施用する。

## ②② のらぼうな

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
のらぼうな	露地			◇	◇									2,000
		<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span>○</span>播種           <span>△</span>仮植           <span>◎</span>定植           <span>×</span>—<span>×</span>収穫           <span>◆</span>基肥           <span>◇</span>追肥         </div>												

### 【施肥基準】

単位:kg/10a

作型	栽植本数	N			P2O5			K2O			施肥の留意点
露地	ml/10a 20	基肥	6	6	6	6	6	6	・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。		
		追肥	6	4	6	6	4	6			
		合計	12	10	12	12	10	12			

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 十分な土づくりと基肥により、厳寒期に入る前に十分な生育をさせる。
- ウ 追肥は収穫始め及び3月中旬の分枝促進時期に行う。

## ②③ だいこん

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
だいこん	冬春まき トンネル	◆ ○	○	—	○	—	×	—	×					5,000 ~ 6,000
だいこん	夏まき									○	—	×	×	6,000

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ○トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
冬春まき トンネル	本/10a 5,500	基肥	10	10	10	・全量基肥施肥。 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
夏まき	5,000	基肥	10	16	10	・マルチ栽培では、全量基肥施肥。 ・主根への障害に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	16	10	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 未熟な有機物のすき込みは根の伸長を妨げることがあるので注意する。特に青刈り作物を作付けした後作は岐根が発生しやすいので注意する。

ウ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

#### 2 施肥

ア マルチ栽培では全量基肥とする。

#### 3 その他

ア 連作により土壌病害が発生しやすいため輪作を行う。

イ 土壌分析の結果に基づき、改良資材を施用しpH6前後に調整する。

## ②④ かぶ

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
かぶ	春まき		◆	⌒ ○	—x x									3,200	
かぶ	夏まき					◆	○	—x	—	○	—x			3,500	
かぶ	冬まき トンネル			—x	—x								◆	⌒ ○	3,000

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥 ⌒ハウス ⌒トンネル

### 【施肥基準】

単位：kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
春まき	本/10a 37,000	基肥	15	15	15	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	15	15	15	
夏まき	37,000	基肥	10	10	10	・全量基肥とする。 ・生育期間が短いので窒素の多肥に注意する。
		追肥	0	0	0	
		合計	10	10	10	
冬まき トンネル	37,000	基肥	12	15	12	・全量基肥とする。
		追肥	0	0	0	
		合計	12	15	12	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

#### 2 施肥

- ア リン酸、カリ、石灰の吸収量が比較的多い。リン酸の効果は明確でないがカリが不足すると生育が劣る。

#### 3 その他

- ア 土壌酸度の適応性は広いが、pH5.5～6.5に調整する。
- イ 単位面積当たりの養分吸収量は他の根菜類と比べ比較的小さい。



## 25 にんじん

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
にんじん	夏まき							◆	○	◇	×	×	×	3,500	
にんじん	冬まき トンネル	○			○	×	×						◆	○	3,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ○トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
夏まき	本/10a 37,000	基肥	14	16	11	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	5	5	5	
		合計	19	21	16	
冬まきトンネル	30,000	基肥	20	20	20	・全量基肥施肥する。
		追肥	0	0	0	
		合計	20	20	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 有機質の投入や深耕により土壌の通気性を高める。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。
- イ 作型に応じて肥料の種類を決定するとともに、定植前の土壌診断により施肥量を決定する。

## ②6 さつまいも

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
さつまいも	露地マルチ			○	—	◆	◎	—	—	—	×	—	×		2,500

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×—×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地マルチ	本/10a 3,000	基肥	2	7	20	・全量元肥施用する。窒素過多に注意。
		追肥	0	0	0	
		合計	2	7	20	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 野菜後のような肥沃地では、良質な生産物ができないので計画的な輪作を行う。
- イ 品種に適したほ場の選定や肥沃度に合わせ栽植密度を調整する。

#### 2 施肥

- ア 施肥は全量基肥とし、窒素過多に注意する。

#### 3 その他

- ア 連作地では、つる割病、立枯病の発生が増加するため土壌消毒を実施する。

## ②7 さといも

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
さといも	露地			◆			◇								
				◎								×			×

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
露地	本/10a 1,700 ~1,800	基肥	10	24	6	・元肥の施肥量は控えめにする。 ・初期生育の過繁茂は、いもの分球肥大に悪影響を及ぼすので注意する。
		追肥	10	12	12	
		合計	20	36	18	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 根が十分張れるよう、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 未熟な堆肥の施用や深耕後植え付けまでに日数がないと、土壌が乾燥して発芽や初期生育に悪影響を及ぼすので注意する。

#### 2 施肥

ア 子いも肥大最盛期に肥切れしないよう6月下旬に追肥を行う。速効性肥料の多肥は濃度障害の発生が心配されるので注意する。

## ②⑧ やまといも

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
やまといも	露地					◎	◆	◇							1,800
				×									×		

凡例: ○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

作型	栽植本数 本/10a	単位: kg/10a			施肥の留意点
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	
露地	5,900	基肥	0	0	・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	17	17	
		合計	17	17	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 根域が深くなるよう、膨軟な土層と排水がよく肥沃な土壌を作るため十分な土づくりが必要。

#### 2 施肥

- ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体に施用する。

#### 3 その他

- ア 連作を行うと褐色腐敗病や根腐腐敗病の発生が多くなるため土壌消毒を行う。

## ②9 葉しょうが

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
葉しょうが	露地早熟			○	○	◇	◇	◇	×	×					2,000

凡例:○播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◡トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	施肥の留意点
露地早熟	kg/10a	基肥	0	0	0	・基肥は、施用しない。 ・追肥は、3回に分けて施用する。
	1,500	追肥	16	16	16	
	~1,800	合計	16	16	16	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

- ア 良質堆肥2~3トン/10aを施用する。  
家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分等を考慮して施用量を調整する。
- イ 植え付けほ場は、無病で十分な土づくりを行ったほ場とする。

#### 2 施肥

- ア 高度化成の多施用は障害の発生が心配されるので注意する。

#### 3 その他

- ア 連作を行うと根茎腐敗病等の発生が増加するため土壌消毒を行う。

## ③⑩ くわい

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
くわい	普通						◆	◎	◎	◇	◇					×	×	1,300

凡例: ◎播種 △仮植 ◎定植 ×-×収穫 ◆基肥 ◇追肥

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数		N	P2O5	K2O	施肥の留意点
普通	株/10a 4,800	基肥	25	30	25	・元肥は、代かき前に施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	13	0	13	
		合計	38	30	38	

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をとるとともに、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 栽培期間中の用水を確保するとともに、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

#### 2 施肥

ア 基肥は、代かき前に施用する。併せてリン酸質肥料を必ず基肥に一定量を施用しておく。

イ 追肥は、葉かき前に2回に分けて施用する。

第1回目は株の養成及び匍匐茎の伸長、第2回目は塊茎の肥大充実を目的に施用する。

## 31 うど

### 【栽培暦】

作物名	作型	栽培暦(月)												目標収量 (kg/10a)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
うど	根株養成 ・軟化栽培	(根株養成)			◆	◇	◇							2,000
		x			◎	◎							1,200	
		x	◎	x	◎	x	◎	x						(軟化栽培)

凡例：○播種 △仮植 ◎定植 x-x収穫 ◆基肥 ◇追肥 △ハウス ◡トンネル

### 【施肥基準】

単位: kg/10a

作型	栽植本数	N			P2O5			K2O			施肥の留意点	
根株養成 ・軟化栽培	株/10a 2,000	基肥	12			24			20			・基肥は、緩効性肥料を施用する。 ・追肥は、2回に分けて施用する。
		追肥	4			8			12			
		合計	16			32			32			

### 【土壌・施肥管理】

#### 1 土づくり

ア 良質堆肥2～3トン/10aを施用する。

家畜ふん堆肥を施用する場合は、十分な期間をとるとともに、有効成分等を考慮して施用量を調整する。

イ 湿害の発生は減収につながる。排水性の高い、耕土の深いほ場が望ましいため、十分な土づくりを行う。

ウ 連作は病害虫の多発が心配されるので計画的な輪作体系を組む。

#### 2 施肥

ア 基肥は、有機質肥料または緩効性肥料を主体として、定植半月前までに施用する。

イ 窒素過多は茎葉の過繁茂を招き、根株の充実を悪くし、休眠打破の障害となるので注意する。

ウ 追肥は生育状況を見ながら7月中旬までに終了させる。8月に入ってから追肥は、生育後半に肥料が効いて、根株の充実が悪く、休眠打破の障害になるので避ける。